市政トピックス

■穂高北部児童館が移転新築　完成を祝う

穂高北部児童館の建設工事が完了し、3月14日にしゅん工式が行われました。太田市長は「子どもたちの笑顔にあふれ、地域に寄り添い、愛される児童館になってほしい」とあいさつしました。

昭和50年に建てられた旧児童館は老朽化し、耐震にも課題があったこと、また放課後児童クラブの受け入れ拡大ニーズに対応するには、施設が手狭になっていました。

新児童館は、穂高北小学校グラウンド南の隣接地に建設。敷地面積は、約2016平方㍍、鉄骨造1階建て、延床面積は約702平方㍍で、新たに創作室や図書室、相談室を設けるなど、地域の子育て支援拠点としての機能強化が図られました。用地取得費も含めた事業費は約3億8904万円で、財源には合併特例債などを活用しています。

しゅん工した穂高北部児童館

■CO_2 60%以上削減　ペットボトル水平リサイクル推進事業連携協定　締結

市とサントリーグループは、「ペットボトル水平リサイクル推進実施に関する事業連携協定」の締結式を2月16日に市役所で行いました。

現在、ペットボトルのほとんどは食品トレーや繊維にリサイクルされ、やがては焼却処分されます。本協定により、使用済みペットボトルを化石由来原料を使わずに、何度も新たなペットボトルに再生することが可能となりました。

初めからペットボトルを生産するのと比べ、CO_2が60㌫以上削減されます。

今後、市内でリサイクルされるペットボトル約256万本のうち約113万本が水平リサイクルされる見込みです。太田市長は「豊かな自然を次代につなぐため、市民の皆さんとリサイクル推進に取り組みたい」と話しました。

協定書に署名する谷口支社長(左)と太田市長(右)

協定書を掲げる澤田工場長(左)と太田市長(右)

■ノウハウや知見を市に提供　健康づくりの協定を締結

市と明治安田生命保険相互会社松本支社は3月10日、健康増進に関する連携協定を結びました。

この協定は、同社が保険事業などを通じて培った知見やノウハウを市に提供するもので、具体的には業務を通じて市のがん検診のチラシを配布することや、市イベントで同社が健康ブースを設けることなどが検討されています。

市役所で行われた締結式で太田市長は「健康づくりの実現は、さまざまな団体・機関と連携しながら裾野を広げる必要がある。感染症対策なども含め、幅広く連携を図りたい」と期待を述べました。

同社と市の連携協定は、高齢者の異変などを報告する「地域見守り活動に関する協定」に次ぎ2例目。今回の協定は、全国688市町村で結ばれています。

室山の80歳ヒノキ　新園舎へ

2/11　さとぷろ。伐採見学会

里山再生を目指す活動を行う「さとぷろ。」は2月11日、三郷西部認定こども園の年長児と保護者6組を招き、室山市有林のヒノキの伐採見学会を行いました。約30㍍の大きなヒノキの木は、1940年代に当時小学校に通う児童たちが植林したもので、今後建て替え予定の同園の建材として使われます。

室山の成り立ちや伐採方法などの話を聞いた園児たちは、チェーンソーで切り倒されていくヒノキの様子を真剣な表情で見守っていました。

両親と参加した鎌﨑琳太郎くん（6歳）は「ちゃんと目印に倒れてすごかった。切り株から木のいいにおいがした。卒業しても新しい園に見に行きたい」と笑顔で話しました。

オンラインでつなぐ　友好都市

2/26　ビンゴ＆オンラインで友好都市の名所めぐり

コロナ禍で直接的な交流ができない中、少しでも友好都市同士のつながりを深めようと、三郷市・東金市・江戸川区・真鶴町・三郷町・安曇野市が合同で企画したオンラインイベントが2月26日に開かれました。

当日は約40人がオンラインで参加。番号が振られた各地の名所をくじで選びながら紹介するのと同時に、参加者はビンゴゲームを楽しむというオンラインならではの趣向で進められました。景品は各地から海産物や果物、工芸品などが提供され、参加者は、「コロナ禍でなかなか遠出できない状態が続いているが、いつかは友好都市を訪れたい」と話していました。

得意分野を生かし　課題解決

3/6　協働のまちづくりフォーラム

市は3月6日、市役所で「協働のまちづくりフォーラム」を開き、オンラインを含め約60人が参加しました。「子育て支援から考える協働のかたち」をサブテーマに、新潟県上越市のNPO法人マミーズ・ネット理事長 中條美奈子さんが講演したほか、市民活動団体など8団体が日頃の活動を発表しました。

中條さんは、行政や企業と協働しながら子育て支援を展開しており、「行政、市民の双方がそれぞれ得意な分野を生かしながら対等な立場を意識してきた」と強調。また、「ワークショップによる子育ての困りごと解決」事業を市と協働して取り組んだ「あづみのファシリテーション部！」の森岡俊道さんは成果発表で、「地域の課題解決のために、気軽に市民と行政が話せる場がもっとあればよい」と話していました。